

## 千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果（公表用1）

### 1 評価機関

名 称	NPO法人ACOBA
所 在 地	千葉県我孫子市本町3-7-10
評価実施期間	平成28年2月1日～平成28年4月30日

### 2 評価対象事業者

名 称	放課後KIDSルーム和名ヶ谷	種別：松戸市地域放課後児童支援事業 放課後KIDSルーム
代表者氏名	和田由美子	定員（利用者人数）： 89名
所 在 地	松戸市和名ヶ谷1085 和名ヶ谷小学校内	TEL： 090-8687-8758

### 3 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

<p><b>◆ 特に評価の高い点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>・総合的に地域の子育て・保育事業をリードする 本施設の母体となる法人「さわらび福祉会」は、現理事長が昭和43年松戸市家庭福祉員（保育ママ）制度発足にあたり、第1号登録「和田ベビーホーム」開設から始まる。社会福祉法人は昭和45年に「さわらび福祉会」として設立した。現在は5つの保育園の他に介護事業も運営しており、幅広く地域密着で事業を行っている。子どもに関する事業では、子育て支援センター、千葉県初の認可夜間保育園、放課後児童クラブ、放課後KIDSルームを行っており、更に低年齢の待機児童の解消に繋げようと15年度から松戸市が始めた小規模保育事業を7か所運営している。また、駅近くの拠点から子どもたちを市内の保育園等にマイクロバスで送迎する市の送迎保育ステーション事業を受託し、仕事をする保護者の期待に応えている。子どもの育成では5歳児までは0～2歳の課題、3歳の壁があり、小学校に入ると小1の壁、小4の壁があり、保護者の心配は計り知れない。さまざまな保護者の課題とニーズに応えるべく、地域の子ども・子育て支援事業に携わっている。地域や行政の期待と信頼は厚く大きい。</p> </li> <li> <p>・わが国有数の子育て支援の先進都市「松戸市」と連携した【放課後子ども総合プラン】への取り組み 国は「次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後などを安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行う事が出来るよう、一体型を中心とする放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備等を進める」としているが、子育て事業に常に先進的な役割を果たしてきた松戸市は、様々な就労や介護への取組に苦慮している保護者の悩みに応えるため、低学年にとどまらず、全学年を対象として放課後児童クラブを推進している。本法人は、これらの要請に積極的に応え、児童クラブ・KIDSルームを運営している。平成28年4月開設の東松戸小学校では、学校施設と一体になった児童クラブ・KIDSルーム（6月～）の運営を始めており、多くの保育事業と合わせ、市行政と連携した子育て支援事業を推進している。</p> </li> <li> <p>・優れた人的環境・物的環境の中で安心・安全の放課後 学校の4階の図書室にあり、三方が本に囲まれ持ち出しはできないが自由に選んで読める。遊べる空間も広く、用具や素材は自由に選べるようにしたり、自発的かつ創造的に活動できるように環境を設定している。学校側のご好意で準備室を用具置き場に借りられていることも、KIDSルームにとってより広く活動場所が確保できラッキーなことである。教員資格のある職員は、常に児童が自発性を発揮できるよう声かけを心がけているという。職員の周りには児童が集まり放課後を楽しく、安全・安心な場ですごしている。階段に県展入選作品7点が貼り出されていた。うち4点がキッズの児童が描いた作品である。発想、創造豊かに描かれた作品は一見の価値がある。</p> </li> </ul>
---

◆特に改善を求められる点

- ・地域との連携、交流をさらに深めるために

KIDSルームは学校の図書室を実施場所とした読書と学習を中心とした事業である。児童は校区内の色々な地域から通学し、登下校などの際には多くの大人達に見守られている。その為にも地域との繋がりを深めることは望ましく、大切なことと思われる。KIDSルームの児童が地域に出ていくことができないならば、例として、老人クラブ等の力を借り昔の遊びや工作を教えてもらうなどすることによって、さらに地域との連携や交流を深めることが期待できる。取り組みを検討されたい。

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント（受審事業者の意見）

- ・第三者評価を受審し、子どもや保護者アンケート結果から高評価をいただいたことは、非常にありがたく、励みになりました。また、評価員の方々からいただきました貴重なヒントや課題は真摯に受け止め、マニュアルの整備や安全対策への取り組みなど、今後も継続し、よりいっそう期待に沿えるよう努力をしてまいりたいと思います。

5 事業者の特徴（受審事業者の特徴）

●児童に対する法人の教育・保育方針は

「知育・徳育・体育のバランスの取れた人間形成をめざす」

- ・ 素直で賢い子
- ・ 明るく思いやりのある子
- ・ 心身ともに元気な子

## 千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果（公表用2）

### 6 分野別特記事項

【施設共通項目】 放課後KIDSルーム和名ヶ谷

大項目	分野別特記事項（特に優れている点・特に改善を求められる点）
I	
福祉サービスの基本方針と組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と保護者・児童のニーズに応える子育て支援事業                      本法人は開設以来、子ども・子育て支援事業で先進的な試みを進める松戸市とともに歩んできている。子どもが生まれてから中学校にあがるまで、乳児・保育園・幼稚園時代・低学年・高学年時代とそれぞれに保護者のニーズは多様化しつつある中で、市が参加する放課後児童クラブ法人連絡協議会などでKIDSルームに関する意見交換を行い、前向きな政策提言を行いつつ、常に新しい事業に進んで取り組んでいる。児童クラブ、KIDSルームでは、他学年交流、より遊びの場づくりや工作の広がりを求める子どもたちの個々の声に耳を傾け、また市の方針に基づき、本年4月より4年生以上の預かりも始めるとした。常に、時代の要請にこたえる姿勢を保持している。</li> </ul>
II	
組織の運営管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員を思いやる人材育成の仕組みと高い定着性                      当法人は職員に関してキャリアごとに、教育・躰・コミュニケーション等の多様なプログラムがある。新しく入った職員は毎月、自分の職務に関して自己評価表を作成しており、管理職・チーフによりアドバイスを受ける。個人としてのスキルの課題やチームとして取り組みにおいて、各職場のレベルアップを目指す仕組みがある。給与は現在、年功序列給、職務給、役職給の仕組みで運用されているが、職員を公平に評価する仕組み（人事評価制度）も導入され、評価について職員との面談も行っている。</li> <li>・手厚い福利厚生の制度                      法人内に「福利厚生委員会」という組織があり、選ばれた委員で働きやすい職場作りに努めている。年一回職員の福利厚生に関するアンケートを実施し、その結果は委員会で分析、反映させるようにしている。有給休暇についても、職員同士が協力しあい取得促進に努めている。また、リフレッシュ休暇（誕生日休暇）などの施策や緊急時における勤務シフトのサポートなどきめ細かく、働きやすい制度が整っている。職員の定着性は高く、職員満足の高さが顧客満足に連動していることを高く評価したい。</li> </ul>
III	
適切な福祉サービスの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事を通して花開く児童                      月3回の工作に加え毎月の行事として、写し絵、お絵描き大会、読み聞かせ、レクリエーションとそして夏休みには専門家を呼んでのカブラ講習会など様々な行事に取り組んでいる。レクリエーションでは、高学年の児童がリーダーシップをとれるように場面を設定して配慮しているという。読み聞かせについては、やってみようという児童の気持ちを大切に、練習を重ね実施。またカブラは、大勢の児童がひとつの用具を共有しながら創意工夫し、作品を作り上げていく積み木で、児童にも支持されている。KIDSルームにつづく階段の踊り場に県展の入選作品が7点展示されている。そのうち4点がKIDSルーム在籍児童の作品であり、様々な取り組みが影響しているかもしれない。</li> </ul>

【施設共通項目】

大項目	分野別特記事項（特に優れている点・特に改善を求められる点）
IV	
サービスの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的な雰囲気の中で他学年の児童と放課後を過ごす                      宿題を見てもらった後、塗り絵や読書、腰を下ろして将棋に興じたり好きに遊ぶ様子はまるで家庭にいるような雰囲気である。工作の日や大型積み木・カブラでひとつの遊具を共有して遊ぶ日は、他学年との交流で、コミュニケーションや創造性がひろがり、兄弟姉妹のような関係がさらに密になる。引っ込み思案・性格が強い・地域に同年齢の児童がいない等、KIDSルームに預ける保護者の意向はさまざまである。経験豊かな教師の資格を持ったスタッフがいて側面から援助できるKIDSルームは保護者にとっては心強い存在である。</li> </ul>

福祉サービス第三者評価共通項目（施設系）の評価結果（公表用3）					評価結果	
大項目	中項目	小項目	項目			
I 福祉サービスの基本方針と組織	1 理念・基本方針	(1) 理念・基本方針の確立	1	①理念が明文化されている。	a	
			2	②理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	
		(2) 理念・基本方針の周知	3	①理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	a	
			4	②理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	
	2 計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンの明確化	5	①中・長期計画を踏まえた事業計画が作成されている。	a	
			6	①事業計画達成のための重要課題が明確化されている。	a	
		(3) 計画の適正な策定	7	①施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが合議する仕組みがある。	a	
	3 管理者の責任とリーダーシップ	(1) 管理者のリーダーシップ	8	①質の向上に意欲を持ち、その取り組みに指導力を発揮している。	a	
			9	②経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	a	
II 組織の運営管理	1 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等への対応	10	①事業経営を取り巻く環境が的確に把握されている。	a	
			11	②経営状況を分析して、改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	
	2 人材の確保・養成	(1) 人事管理体制の整備	12	①施設の全職員が守るべき倫理を明文化している。	a	
			13	②人事方針を策定し、人事を計画的・組織的に行っている。	a	
			14	③職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	a	
		(2) 職員の就業への配慮	15	①事業所の就業関係の改善課題について、スタッフ（委託業者を含む）などの現場の意見を幹部職員が把握できる仕組みがある。	a	
			16	②福利厚生に積極的に取り組んでいる。	a	
			17	③職員の質の向上への体制整備	a	
	(3) 職員の質の向上への体制整備	18	④定期的な個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a		
		19	⑤実習生の育成について、積極的な取り組みを行っている	b		
		20	⑥緊急時（事故、災害、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a		
	3 安全管理	(1) 利用者の安全確保	21	②利用者の安全確保のためにリスクを把握し、対策を実行している。	a	
			22	①地域との交流・連携を図っている。	a	
			23	②利用者ニーズに応じて、施設外にある社会資源を活用している。	b	
			24	③事業所が有する機能を地域に還元している。	b	
			25	④関係機関等との連携が適切に行なわれている。	a	
			26	①地域の福祉ニーズを把握している。	a	
			27	②地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	
	III 適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の福祉サービス	(1) 利用者尊重の明示	28	①施設の全職員を対象としたプライバシーの保護に関する研修を行なっている	a
				29	②プライバシーの保護の考え方の徹底を職員の間で行っている。	a
(2) 利用者満足の上昇			30	①利用者満足の上昇を意図した仕組みを整備している。	a	
			31	②利用者満足の上昇に向けた取り組みを行っている	a	
(3) 利用者意見の表明			32	①苦情又は意見を受け付ける仕組みがある	a	
			33	②寄せられた意見、要望やトラブルに対応するシステムがある。	a	
		34	③利用者からの意見等に対して迅速に対応している	a		
2 サービスの質の確保		(1) サービスの質の向上への取り組み	35	①サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	
			36	②課題発見のための組織的な取り組みをしている。	a	
			37	③常に改善すべき課題に取り組んでいる。	a	
		(2) サービスの標準化	38	①職員の対応について、マニュアル等を作成している。	a	
			39	②日常のサービス改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	b	
(3) 実施サービスの記録		40	①利用者の日常の体調の変化を把握して、それを記録している。	a		
	41	②利用者の状態変化などサービス提供に必要な情報が、口頭や記録を通して職員間に伝達される仕組みがある。	a			
3 サービスの開始・継続	(1) サービス提供の適切な開始	42	①施設利用に関する問合せや見学に対応している。	a		
		43	②サービスの開始に当たり、利用者等に説明し、同意を得ている。	a		
4 サービス実施計画の策定	(1) 利用者へのアセスメント	44	①利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a		
		45	①一人一人のニーズを把握して個別の支援計画を策定している。	b		
	(2) 個別支援計画の策定	46	②個別支援計画の内容が常に適切であるかの評価・見直しを実施している。	b		
(3) 情報の管理		47	③個人情報保護に関する規定を公表している。	a		

項目別評価結果・評価コメント（公表用4）

事業者名 放課後KIDSルーム和名ヶ谷

評価基準	項目番号	評点	コメント
I 福祉サービスの基本方針と組織			
I-1 理念・基本方針			
I-1-1 理念、基本方針が確立されている。			
I-1-1-1-① 理念が明文化されている。	1	a	法人の理念は「【知育】【徳育】【体育】のバランスのとれた人間形成を目指す」である。理念・方針は事業計画書、報告書などの法人・事業所内文書や広報誌に明記されている。
I-1-1-1-② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	2	a	法人の基本方針となる保育目標は「素直な賢い子」「明るく思いやりのある子」「心身ともに元気な子」である。基本方針がパンフレット、HP上に記載され明文化されている。方針はルーム内に掲示している。
I-1-2 理念、基本方針が周知されている。			
I-1-2-1 理念や基本方針が職員に周知されている。	3	a	法人が定めている「職員の統一事項」「事務関係統一事項」とがあり、自身の活動が理念・方針に合うかどうかを確認して、周知している。
I-1-2-2 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	4	a	理念や基本方針はルーム内に掲示している。また、入会時のルーム説明会で説明をしたり、パンフレットの配布をして、周知を図っている。児童に対してはおたよりや会話を通し、日常的に伝えている。
I-2 計画の策定			
I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-2-1-1 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	5	a	法人全体と事業所ごとに事業計画が具体的に設定され、それぞれの重要課題が明確になっている。
I-2-2 重要課題の明確化			
I-2-2-1 事業計画達成のための重要課題が明確化されている。	6	a	法人には理事長出席のもと全所（園）長の集まる運営会議がある。KIDSルームでは就業後に、その都度スタッフ間で話し合い、気になる点、問題点など確認し合い、明確化している。宿題をこなすだけでなく更に「学びの時間」について保護者ニーズがあり、今後の検討課題となると考えている。
I-2-3 計画が適切に策定されている。			
I-2-3-1 施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが合議する仕組みがある。	7	a	新たな課題には随時管理者と打ち合わせを行っている。課題解決のためにそれぞれの役割分担を決め、実行に繋げている。
I-3 管理者の責任とリーダーシップ			
I-3-1 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
I-3-1-1 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	8	a	スタッフの意見を尊重し、その上で児童にとってより良い場であるように必要に応じ、指導、助言を行っている。宿題を行うのに加え、更に「学びの時間」について保護者ニーズがあり、検討課題としている。
I-3-1-2 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	9	a	改善に向けた取り組みは、その都度相談し、より良い解決に向けての指導がなされている。
II 組織の運営管理			
II-1 経営状況の把握			
II-1-1 経営環境の変化等への対応			
II-1-1-1 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	10	a	市・児童クラブ・KIDSルームの会議に出席し、市内に住む家庭や児童を支援するべく、市や同業者と積極的な意見交換をし、連絡を取り合っている。
II-1-1-2 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	11	a	毎月開催の経営会議、運営会議で児童クラブ・KIDS事業の今後の取組が協議される。市とは綿密な関係にあり、常に情報交換をしつつ、新しい事業展開を検討している。
II-2 人材の確保・養成			
II-2-1 人事管理の体制が整備されている。			
II-2-1-1 ①施設の全職員が守るべき倫理を明文化している	12	a	法人には倫理規定があり、入職時の教育や「就職統一事項」により学んでいる。利用者家族との懇談会などでのプライバシー情報については職員全員が十分配慮するようにしている。
II-2-1-2 人事方針を策定し、これに基づく職員採用、人材育成を計画的・組織的に行っている。	13	a	法人には職務権限規定と就業規則がある。就業規則は常勤、非常勤、嘱託別に揃っておりわかり易い。働き易い職場環境づくりのために、「やりがい」と「人間関係の良さ」に配慮した様々な仕組みがある。勤務年数に応じて、さまざまなキャリアアップ制度がある。

評価基準	評点	コメント
II-2-(1)-③職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	14	a 給与は現在、年功序列給、職務給、役職給の仕組みで運用されているが、職員を公平に評価する仕組み（人事評価制度）も導入され、評価について職員との面談も行っている。
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
II-2-(2)-①事業所の改善課題について、スタッフ（委託業者を含む）などの現場の意見を幹部職員が把握できる仕組みがある。	15	a 法人に「福祉厚生委員会」を設置し、同委員会では就業状況についてチェックしている。27年度は全職員にアンケート調査を実施、改善点を話し合った。その結果、正規職には「誕生日休暇」を設けることによって休暇を誰もがとりやすい工夫を行った。
II-2-(2)-②福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	16	a 福利厚生については、法人の「厚生委員会」が機能している。同委員会の提案によって、法人として社会福祉法人福利厚生センターが推奨するソウェルクラブに入会し、福利厚生を充実させている。嘱託医による健康相談も必要に応じて職員が受けられる体制となっている。
II-2-(3) 職員の質の向上への体制整備		
II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	17	a 放課後児童クラブについては、松戸市と松戸市放課後児童クラブ法人連絡協議会（MAC）とで事業方針が話し合われている。研修は松戸市やMACの研修や国・児童クラブ関係団体による研修に参加しているほか、内部研修を行っている。KIDSルームはそれに準じて実施している。
II-2-(3)-② 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	18	a 松戸市主催の外部研修等に参加している。参加職員はレポートを作成、出席していない職員と共有化を図り、研修成果を生かすようにしている。
II-2-(3)-③ 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	19	b 現在は実習の希望もなく受け入れ実績はない。しかし、希望があった場合には前向きに受け入れていく考えを示しているものの、受け入れを具体化する支援プログラムは用意されていない。今後のプログラム作成などに期待したい。
II-3 安全管理		
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。		
II-3-(1)-① 緊急時（事故、災害、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	20	a 事故防止や感染防止のマニュアルを用意、緊急時に対応できるよう運営している。緊急連絡網をつくり、保護者に直ちに連絡できる体制をとっている。学校内（図書室）の活動の為、基本的には小学校の指示に従う。
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	21	a 安全確保については、防災無線、防災メールを設定しつつ、学校などの連絡により情報収集し、対応につとめている。また、学校を病欠した子どもの受け入れをしないことやルームに参加した児童の様子をしっかりと観察するなど注力している。
II-4 地域との交流と連携		
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
II-4-(1)-①地域との交流・連携を図っている。	22	a 学校内での活動のため、現実的には難しいが、講師を招き、同じ学校敷地内にある学童保育と共同で「カブラ」の講習会を行っている。今後、市や地域からも期待される事項である。
II-4-(1)-②利用者ニーズに応じて、施設外にある社会資源を活用することを支援している。	23	b 図書室での活動なので、現在は現実的に難しいが、今後目指していきたい事項である。
II-4-(1)-③事業所が有する機能を地域に還元している。	24	b KIDSルームは松戸市の委託事業で、一定の制限があることから事業者が単独で地域開放などにむけた事業展開には難しいものがあるながらも、保護者や地域の方々と話し合うことによってその道を探りたい。
II-4-(1)-④関係機関との連携を図っている。	25	a 年度初めに、学校側と昨年度の報告、新年度の計画などについて話し合う場を設けている。学校側に毎月お便りの配布もっており、報告事項がある場合はその都度行っている。委託を受ける市には報告と相談を欠かさない。
II-4-(2) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。		
II-4-(2)-① 地域の福祉ニーズを把握している。	26	a 運営法人は福祉サービスでニーズがあるサービスに先駆的に取り組んでいる。各保護者のニーズや抱える問題を児童のお迎え時や電話などで伺い、把握して、スタッフ間で共有している。
II-4-(2)-② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	27	a 管理者は松戸市や松戸市放課後児童クラブ法人連絡協議会などを通じて、全国や地域における地域の福祉ニーズを的確に捉え、それに対応している。ルーム内における児童の様子や気になる点、ちょっとした変化が見られた際にはこまめに保護者に知らせている。

項目別評価結果・評価コメント（公表用5）

事業者名 放課後KIDSルーム和名ヶ谷

評価基準		評点	コメント
Ⅲ 適切な福祉サービスの実施	項目 番号		
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス			
Ⅲ-1-1 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
Ⅲ-1-1(1)-①施設の全職員を対象としたプライバシーの保護に関する研修を行なっている	28	a	法人で保管。入職時に説明を聞きプライバシー保護にかんする誓約書を提出。定例会議等でプライバシー保護に関する例を用いて職員間で話し合いを実施している。
Ⅲ-1-1(1)-② プライバシーの保護の考え方の徹底を職員の間で図っている。	29	a	利用者の個人情報は鍵つきロッカーに保管し取り扱いには充分注意している。個名の載っている書類はシュレッターで処分している。
Ⅲ-1-2 利用者満足の向上に務めている。			
Ⅲ-1-2(1)-① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	30	a	児童との日常会話から意見の要望をきいている。おやつと、遊びのアンケートを実施。遊びの一番人気はカブラと木製積み木だった。
Ⅲ-1-2(1)-② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	31	a	児童が遊びたい教材等を好きに選べるように環境を設定している。児童がいろんな遊びが楽しめるように約束事はない。無制限ではない。毎月写し絵大会、お絵かき大会読み聞かせ工作など多くの児童が楽しめるよう開催時期や内容に工夫がみられる。
Ⅲ-1-3 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
Ⅲ-1-3(1)-① 苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	32	a	法人として(苦情窓口)をもうけている。苦情が出た場合直ちに関係者に報告し早い解決をめざしている。
Ⅲ-1-3(1)-② 寄せられた意見、要望やトラブルに対応するシステムがある。	33	a	苦情が寄せられた場合は管理者に内容を報告し職員で意見を出し合いより早い返答を心がけている。
Ⅲ-1-3(1)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	34	a	利用者から意見が寄せられた場合は職員で事実確認を行い関係者に内容を報告し改善につとめている。同じ間違いを起こさないよう啓発している。
Ⅲ-2 サービスの質の確保			
Ⅲ-2-1 質の向上に向けた組織的な取り組みが組織的に行われている。			
Ⅲ-2-1(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	35	a	職員が2名なので毎日の終わりに話しあっている。課題がある場合はその都度時間をとって話しあい問題を共有している。記録はとってある。
Ⅲ-2-1(1)-② 課題発見のための組織的な取り組みをしている。	36	a	気にかかることが生じた場合は児童から情報や問題点を聞き取るようにしている。、時には保護者とも連絡を取りあう場合もある。、職員間で問題を共有している。KIDSルームへのお迎え時や学校の来訪時に保護者からの相談は時々ある。
Ⅲ-2-1(1)-③ 常に改善すべき課題に取り組んでいる。	37	a	児童の気になったことや改善点、反省点など、ルーム終了後に職員間ではなしあう時間を設け共有している。早期に解決できるよう取り組まれている。

評価基準		評点	コメント
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。			
Ⅲ-2-(2)-① 職員の対応について、マニュアル等を作成している。	38	a	法人は「職員統一事項」として接遇や対応マニュアルを作成しており、適切な対応がとられている。
Ⅲ-2-(2)-② 日常のサービス改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	39	b	児童の様子を見ながら随時話し合いの場をもうけている。今後マニュアルについてはKIDSルームに特化した内容を加えたものを作成していきたい意向はもっている。
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ-2-(3)-① 利用者の日常の体調の変化を把握して、それを記録している。	40	a	ルームに来たときいつもと違う様子や体調の悪そうな児童を察知し、検温や健康視診を行い様子を見るとともに、日誌に記録している。
Ⅲ-2-(3)-② 利用者の状態変化などサービス提供に必要な情報が、口頭や記録を通して職員間に伝達される仕組みがある。	41	a	体調の変化は児童が訴えることができる。職員間で報告し合い共有し、様子を見ながらメール等で保護者に連絡をとっている。
Ⅲ-3 サービスの開始・継続			
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(1)-① 施設利用に関する問合せや見学に対応している。	42	a	問い合わせは電話が多い。1日体験者の門戸をひらいている。本年度は3名の1日体験の希望があり、3名とも入会された。
Ⅲ-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	43	a	小学校の入学式のあと入会説明会を実施し、理念・サービス内容等を伝え理解を得て入会していただいている。
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定			
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。			
Ⅲ-4-(1)-① 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	44	a	工作やレクリエーションなどの活動を通した中で、場面に応じて課題を設定し、自然な遊びや集団活動の中で役割を持たせ、達成感を味わえるようにしている。
Ⅲ-4-(2) 個別支援計画の策定			
Ⅲ-4-(2)-① 一人一人のニーズを把握して個別の支援計画を策定している。	45	b	配慮が必要な児童については記録をとり、現状の把握を行い個別指導をおこなっている。利用頻度がまばらで難しい面もあるが、全員の個別の計画書を策定することで、良いところは見守り、個性を伸ばすなど、それぞれに合った支援計画の方法が明確になることを期待する。
Ⅲ-4-(2)-② 個別支援計画の内容が常に適切であるかの評価・見直しを実施している。	46	b	気になる児童については、計画の見直しをおこなっている。全員の児童の個別の計画書を策定し見直すことで、できていること、今後期待されることなど、職員間で共有することにより支援の方法が明確になることを期待する。
Ⅲ-4-(3) 情報の管理			
Ⅲ-4-(3)-① 個人情報保護に関する規程を公表している。	47	a	個人情報規定に関する規定さわらび福祉会ホームページに掲載している。



福祉サービス第三者評価項目・地域放課後児童支援事業・放課後KIDSルームの評価結果（公表用6）					評価結果
放課後KIDSルーム和名ヶ谷（2, 6, 7, 8, 13, 14, 22は対象外）					
大項目	中項目	小項目		項目	
IV 松戸市 地域放 課後児 童支援 事業・ 放課後 KIDS ルーム	1 放課後KIDS ルームの活 動に関する 事項	(1) 遊びの環境整 備	1	遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている。	a
			2	乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある。	a
			3	利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している。	a
			4	くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている。	b
			5	幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている。	a
		(2) 乳幼児と保護 者への対応	6	乳幼児と保護者が日常的に利用している。	非該当
			7	乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている。	非該当
			8	保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している。	非該当
		(3) 小学生への対 応	9	職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している。	a
			10	職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている。	a
			11	障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている。	a
			12	行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている。	a
		(4) 中高生への対 応	13	日常的に中高生の利用がある。	非該当
			14	中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している。	非該当
		(5) 利用者からの 相談への対応	15	利用者からの相談への対応が自然な形で行われている。	a
			16	虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている。	a
		(6) 障害児への対 応	17	障害のある児童の利用に対する支援策が整っている。	a
			(7) 地域の子育て 環境づくり	18	住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している。
		19		地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている。	a
		(8) 広報活動	20	広報活動が適切に行われている。	a
	21		児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている。	a	
松戸市地域 放課後児童 支援事業・ 放課後KIDS ルーム	2 放課後KIDS ルームの活 動に関する 事項	(1) 放課後KIDS ルームの特色 を生かした地 域児童館等と の連携	22	大型児童館としての施設・設備や人材、プログラムを備え、有効に活用している。	非該当
			23	都道府県（市）内全域を対象にした健全育成活動に取り組んでいる。	a
			24	児童館活動等に関する情報収集が適切に行われている。	a
			25	都道府県（市）内児童館へのプログラム提供が適切に行われている。	a
			26	都道府県（市）内児童館の職員に対する研修や相互交流の機会づくりに取り組んでいる。	a
			27	児童の健全育成に関する普及啓発と調査研究に積極的に取り組んでいる。	a
	(2) 健全育成の環 境作り	28	児童の健全育成にかかわる地域団体等の支援とネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。	a	
		29	児童の健全育成に関する関係機関との連絡・協議が適切に行われている。	a	

項目別評価結果・評価コメント（公表用7）

事業者名 放課後KIDSルーム和名ヶ谷

（2, 6, 7, 8, 13, 14, 22は対象外）

評価基準	項目番号	評点	コメント
IV 地域放課後児童支援事業・放課後KIDSルーム			
IV-1 放課後KIDSルームの活動に関する事項			
IV-1-(1) 遊びの環境整備			
IV-1-(1)-① 遊ぶ際を守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている。	1	a	市の委託事業で図書館利用のため、学校のルールにのっとり、守るように指導している。室内のみの利用のため発散したい児童も時にはいるが個別に対応し援助するようにしている。
IV-1-(1)-② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある。	2	非該当	該当せず
IV-1-(1)-③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している。	3	a	それぞれ宿題を済ませ、並べられた教材から遊びを自由に選んでいた。職員呼びかけでおこなう工作にも人気がある。工作に参加しない児童のうち、女子児童はぬりえや絵描きを、男子児童は将棋をさしていた。カブラや木製積み木は大勢がひとつの遊具で遊ぶため自然発生的に縦割りの関係が生まれると思われる。
IV-1-(1)-④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている。	4	b	上履きを脱いで入ると、広い室内にはカーペットが敷かれていてさらさらと気持ちがよく家庭に帰った気分になる。どっかりと腰を下ろして将棋を指す男子児童のくつろいだ姿が見られた。3方が本に囲まれいつでも自由に読める。本好きの児童にはたまらない空間である。小説を読みふける女子児童もいた。椅子の下がロッカーの変わりになっているが、衣類等がはみ出して居た。籠などを用意されることをお勧めする。
IV-1-(1)-⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている。	5	a	1年から6年までの児童が89名が登録をしている。学年が上がるほど出席率は低い。夏休みが終わる頃までは出席率は高い。3月は少ないが、常時20名前後の児童が利用している。工作、遊具での遊びを通し、自然と他学年と一緒に遊ぶ姿がみられる。
IV-1-(2) 乳幼児と保護者への対応			
IV-1-(2)-① 乳幼児と保護者が日常的に利用している。	6	非該当	該当せず
IV-1-(2)-② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている。	7	非該当	該当せず
IV-1-(2)-③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している。	8	非該当	該当せず
IV-1-(3) 小学生への対応			
IV-1-(3)-① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している。	9	a	途中入所した児童には個別に指導援助している。喧嘩やトラブルについては怪我をしないように注意しながら、児童同士で解決できるように援助している。
IV-1-(3)-② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている。	10	a	行事として、写し絵、お絵かき大会、レクリエーション、読み聞かせなどに取り組んでいる。夏休みには合同カブラ遊びも専門家に来ていただき実施している。レクリエーションや行事の司会など高学年の児童がリーダーシップを発揮できる場を配慮している。
IV-1-(3)-③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている。	11	a	現在国籍の違う児童が2名在籍しているが、国籍の違いを超えて仲良く過ごせるようアドバイスを行っている。毎日、気に留めず仲良くすごしている。かつて障害のある児童が1ヶ月在籍したいたことがあるが、一緒に遊び楽しんでた様子が見られたと報告を受けた。
IV-1-(3)-④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている。	12	a	児童の出席はボードにある名前を各児童が動かしそれを見て帰宅時間の表示も含め職員が把握している。月に2から3回工作をカリキュラムに取り入れ人気がある。本の読み聞かせやレクリエーション等個々の意欲に応じて集団活動の中で役割分担を決め達成感を味わえるようにしている。

評価基準		評点	コメント
IV-1-(4) 中学生への対応			
IV-1-(4)-① 日常的に中学生の利用がある。	13	非該当	該当せず
IV-1-(3)-② 中学生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している。	14	非該当	該当せず
IV-1-(5) 利用者からの相談への対応			
IV-1-(5)-① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている。	15	a	いつもより口数が少ないなどなんとなくサインを発してくる児童の変化の気づきに職員同士で共有し相談するようにしている。日頃から児童が相談しやす人間関係作りを意識している。
IV-1-(5)-② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている。	16	a	今までも現在も、虐待を受けた児童や不登校児に該当する児童はいない。該当者がでた場合は法人の支援体制が整っている。
IV-1-(6) 障害児への対応			
IV-1-(6)-① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている。	17	a	障害のある児童が入会したこともあり、トイレの改修がなされるまで気持ちの良いトイレでバリアフリーであった。個室も広々として使いやすい。障害のある児童の利用における支援策は、その都度、学校と連携を図り、対応策を考えている。
IV-1-(7) 地域の子育て環境づくり			
IV-1-(7)-① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している。	18	b	現在は活動に参加していない。図書室から出たの活動は期待できないので、昔の遊びや工作などで地域の老人クラブに来ていただく等子育て支援活動を検討されたい。
IV-1-(7)-② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている。	19	a	玄関まで職員が付き添って送り出している。2から3人で下校するよう指導している。やむを得ず1人で帰らざるを得ない児童は保護者にお迎えをお願いしている。
IV-1-(8) 広報活動			
IV-1-(8)-① 広報活動が適切に行われている。	20	a	市内の12箇所のルームが順番に1ヶ月に1回KIDSルーム便りを発行している。現在40号を超えている。HP(まつどあ)に掲載し多くの市民の目にとまるようにしている。
IV-1-(8)-② 放課後KIDSルームの活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるよう創意ある広報活動が行われている。	21	a	HP(まつどあ)に掲載。小学校の入学式や入学説明会に配布募集活動を行っている。本年は3名の1日体験者が入会した。電話での問い合わせは多い。
IV-2・放課後KIDSルームの活動に関する事項			
IV-2-(1) 放課後KIDSルームの特色を生かした地域児童館等との連携			
IV-2-(1)-①放課後KIDSルームとしての施設・設備や人材、プログラムを備え、有効に活用している。	22	非該当	該当せず
IV-2-(1)-② 都道府県(市)内全域を対象にした健全育成活動に取り組んでいる。	23	a	現在はおこなわれていないが機会があれば取り組みたい意向はある。
IV-2-(1)-③放課後KIDSルーム等に関する情報収集が適切に行われている。	24	a	基本的には学校便り、学年便り等で情報収集している。校内にクラブがあることから教頭先生などと常時顔をあわせる。直接話を聞く機会がある。
IV-2-(1)-④ 都道府県(市)の放課後KIDSルーム(内児童館)へのプログラム提供が適切に行われている。	25	a	事業報告書は松戸市へ報告している。
IV-2-(1)-⑤ 都道府県(市)内放課後KIDSルーム(児童館)の職員に対する研修や相互交流の機会づくりに取り組んでいる。	26	a	松戸市子育て支援課、主催の研修会に参加している年1回程度。他のスタッフに報告をしている。相互交流の機会はまだない。
IV-2-(2) 健全育成の環境作り			
IV-2-(2)-① 児童の健全育成に関する普及啓発と調査研究に積極的に取り組んでいる。	27	a	学校から自宅に帰るように、KIDSルームに集まる児童の様子はのびのびとしている。職員は障害児教育や遊びの意義など研修を通じ研鑽し異文化の児童や障害児をうけいれている。KIDSルーム便りを市のHP「まつどあ」に掲載し啓発をはかっている。
IV-2-(2)-② 児童の健全育成にかかわる地域団体等の支援とネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。	28	a	児童の出席を確認しているボードは当KIDSルームで考案された物が、他のルームに拡大するなど、当ルームが役割を果たした。「まつどあ」にKIDSルームの様子が掲載されており広く市民にアピールしている。
IV-2-(2)-③ 児童の健全育成に関する関係機関との連絡・協議が適切に行われている。	29	a	松戸市子育て支援課と管理者は常に交流を持ち施設の現状について、話し合っている。